

『中国文化』総目次（五〇号～五九号）

雑誌名	中国文化：研究と教育
巻	60
ページ	156-160
発行年	2002-06-29
URL	http://hdl.handle.net/2241/00150388

『中国文化』総目次（五〇号〜五九号）

第五〇号（一九九二年六月）

〔巻頭言〕 大塚 われら興れり……………水沢利忠 一
孟子における孔子『春秋』制作説について……………

……………加賀栄治 三
〔分〕の思想——初期法家を中心に——菅本大二 一七
李陵の禍……………吉原英夫 三〇

曹植詩考——悲風を手掛かりとして——中野 将 四一
陶淵明における貧窮の意味……………上田 武 五三

陶淵明「擬古」九首其一の表現手法と寓意について……………
……………沼口 勝 六五

唐詩人の咆哮——任華の自薦と文学——高木重俊 七八
宋代の詩と詩論における「意」について——蘇軾を
中心として……………横山伊勢雄 九一

〔言志〕から「溫柔敦厚」へ——朱彝尊における政
治と文学……………伊藤虎丸 一〇四

菅原道真における「不出門」の詩の解釋をめぐる

……………菅野禮行 一一七
北京語の概数を表す「来的」について……………牛島徳次 1
〔研究ノート〕

『聊齋志異』に於ける帝王願望の批評——「畫壁」

の引用の意味……………北村良和 一二八

○漢文学会略史（付資料）……………一三七

○漢文学会会報総目次（第一号〜第四九号）……………一六一

第五一号（一九九三年六月）

陶淵明「乞食」の詩の寓意について……………沼口 勝 一
思婦の詩と月と……………山口爲廣 二〇

蘇軾の「窮」と「工」をめぐる理論について……………高橋明郎 三三
……………

薛瑄の「復性」思想——明代朱子学派の一面……………井川義次 四五

「玉梅花蘂論家」の依拠資料について……………菅野智明 五七
『拍案驚奇』の戯曲化——『蘇門嘯』より見た「拍
案驚奇」の読まれ方……………村田和弘 25

『范鯁兒雙鏡重圓』の創作方法……………小松建男 12

中国映画の失われた系譜——中国映画史研究へのア
プローチのためのメモランダム……………白井啓介 1

第五二号（一九九四年六月）

蔡邕「董幼胡根の碑銘」と哀辭——禁碑のもたらしたもの	後藤秋正	一
禪讓と太平國家——『尚書中候』における禪讓神話	間嶋潤一	一二
曹植「遊仙詩」考——その「詠懷性」について	中野 将	二八
陶淵明「自祭文」へ樂天委分「以至百年」考	安立典世	四〇
李商隱の代作の態度について——「太尉衛公会昌一品集序」を中心にして	加固理一郎	五四
王雲五と鄭振鐸——商務印書館史の一断面	松村茂樹	六七
狐妖譚の変容と継承	村田和弘	二二
——「大別狐妖」から「二刻拍案驚奇」及び「型世言」まで		
『儒林外史』の「把」について	白澤寛子	一三
『雷雨』の舞台指示	白井啓介	一
——曹禺戯曲研究への一つの模索		

第五三号（一九九五年六月）

謝靈運の「山居賦」について	安藤信廣	一
官人としての陳子昂——その上書を中心として	高木重俊	一四
『祖堂集』反覆問句的一项考察	劉 勲 寧	三二
蘇軾の「墨戲」——文人画の形成	横山伊勢雄	四一
陳白沙と湛甘泉	志賀一朗	五三
周予同の経学史研究について	阿川修三	六五
漢文における近代アイデンティティの模索——漢文科をめぐる明治、大正の論議	佐藤一樹	七七
生徒の疑問を活かした授業——『史記』項羽本紀の場合	渡辺雅之	九〇
「教詞十動量詞」次ぐが状語になる場合についての考察	金谷順子	一
第五四号（一九九六年六月）		
経書の行方・序章——科挙終焉の時点に立って	加賀栄治	一
『尚書中候』における殷湯の受命神話について		
『淮南子』の「道」と「事」——その自然法的思惟	間嶋潤一	一六

をめぐって——	辛賢	二九	段玉裁の『汲古閣説文訂』について……高橋由利子	三七
「感士不遇賦」の材源と「困窮節」の定立	櫻田芳樹	四二	『隸辨』『隸篇』の撰述目的について……加固明子	五三
袁粲と狂泉	稀代麻也子	五三	日中近代文学交流史の中における田漢——田漢と同時代日本人作家の往来……小谷一郎	六六
送葬詩小論——王褒の詩を中心として	後藤秋正	六五	大江千里「鶯の谷より出づる声なくは云云」(古今集)	
李商隱の駢文と詩との関係について——祝文を中心にして	加固理一郎	七七	・春上)の典拠をめぐって——和漢比較文学ノート	
高等学校漢文における詩単元の位置づけ細谷美代子	白澤寛子	八九	陳述文における「来着」について……金谷順子	七八
『儒林外史』における空間描写の機能について	安藤好恵	一	第五六号(一九九八年六月)	
同時進行する動作の表現型について	玉城要	二六	周公避居説小考——鄭玄以前の周公避居説——	一
第五五号(一九九七年六月)			沈約の「修竹彈甘蕉文」について……稀代麻也子	一四
『帛書周易』の卦序構成における「象」と「数」			李翱「復性書」の「虚」について——王通「中説」の「遺道德」・「坐忘」との関連において——	
帛書「経法」「十六経」「称」「道原」四篇の成立			『儒教美義』の思想……高橋朱子	二七
について——「黄老」との関わりを中心に			『拍案驚奇』の眉批について——作者・テクスト・評者の関係をめぐって……村田和弘	四〇
姚合の詩について——中唐期における新しい個性として			動補動詞の認知的視点……石村広	二二
			南豊話の入声……大嶋広美	11

〔研究ノート〕

雲南大理白族自治州における白族の新文字普及運動

をめぐって……………甲斐勝二 35

○「大塚漢文学会」から「中国化学会」へ……………高橋均 五三

第五七号（一九九九年六月）

「飲酒」〈其五〉の詩の一解釈——その帰鳥のイ

メージと「易」との関連を中心として……………沼口勝 一

韓愈の「情」と李翱の「情」——「原性」と「復

性書」の「中庸篇」解釈に関連して……………高橋朱子 一五

海上画派の図録類と学画法をめぐって……………松村茂樹 三〇

沈曾植の北碑論……………菅野智明 四〇

郭店老子の組分けと竹簡の配列について渡邊大……………大 五三

「定州漢墓竹簡『論語』」試探（一）……………高橋均 1

〔研究ノート〕

則天武后著述六種考——『日本国見在書目録』集部

著録書を中心に……………孫猛 15

第五八号（二〇〇〇年六月）

公劉・大王の受難と「后稷の業」——『詩譜』「豳

譜」における鄭玄の解釈……………間嶋潤一 一

陶淵明「擬古」九首〈其三〉の詩の寓意について……………沼口勝 一五

沈約『宋書』における蔡興宗像の構築——袁粲像と

の比較を通して……………稀代麻也子 三〇

張説の欽州流謫詩について……………高木重俊 四二

王維「宋進馬哀辭」小考……………後藤秋正 五五

李商隱の軼機——「驕兒詩」を中心にして……………加固理一郎 六七

……………相原茂 1

現代中国語「おめでとう」考……………相原茂 1

〔研究ノート〕……………石田志穂 七九

肉体から道へ——荘子思想の一考察……………石田志穂 七九

第五九号（二〇〇一年六月）……………稀代麻也子 一

「宋書」隱逸伝の陶淵明……………稀代麻也子 一

杜牧「昔事文皇帝三十二韻」について——その制作……………高橋未来 一二

意図をめぐって……………河内利治 二五

黄道周獄中手書〈孝経〉考……………河内利治 二五

一枚の写真から——帰国前の陶晶孫、陶晶孫と人形……………河内利治 二五

劇のことなど	小谷一郎	39
『小心』に見られる原因賓語生成の一類型——『小心』の話史	伊原大策	27
『三國志演義』の生成	小松建男	15
『定州漢墓竹簡』論語」試探(三)	高橋均	1
『中国化学会平成二二年度シンポジウム』西域と中国」発表要旨		三七